

暗証番号

7 5 1 0 3

ミュージックのテストをする時は必ずアンテナを接続して下さい。パワーモジュールが壊れる場合がありますので、必ず守って下さい。

ミュージック（スタンバイコール）は、ノーマルマイク以外のマイク（ガチャコン等の、4Pマイクや、フレキシブルマイク）を使用したときは、自分には聞こえますが、相手には、スタンバイコールが、聞こえなくなります。

ザ・ミュージックボックス

*Super WINKLE*には、10局のスタンバイコールが使える音楽機能があります。

マイクを握った時、離れた時、その両方と自由に選べます。もちろんミュージックOFFもできます。

F + **メモリリード** => **Sound** + **?** ? が、1~4の数字キーで決定!

○ 数字キーが 1 の場合 (全10曲オーケストラ)

記憶しているメロディーを一通り聞けます。(10曲)

F + **メモリリード** => **Sound** + **1** => **Sd--0** ... **Sd--9**
(音楽とともに右端の数字が変化する)

○ 数字キーが 2 の場合 (演奏曲セット)

例: 1番のメロディをセットする。

F + **メモリリード** => **Sound** + **2** => **SdSEL** で **1** を押す **no--1**
no--? さらに、0~9の数字を押してメロディを選択する事が可能。

↑
ここは、0~9の数字が出る。

Sound 1~7 は あのヒット曲

Sound 8 は 永遠の名曲河内音頭

Sound 9 は イラン・イラク戦争でも使われた??

Sound 0 は うぐいす谷ミュージックホールの大ヒット曲??

が入ってます。

○ 数字キーが 3 の場合 (スタンバイコールのセット)

F + **メモリリード** => **Sound** + **3** => **SdPoS** => **----** (初期設定は、NC)

この時の表示は、次の4つの表示のうちのどれかです。マイクを握ると...

1 **o----** FC (フロントコール) マイクを握った時に鳴る。

2 **----o** BC (バックコール) マイクを離れた時に鳴る。

3 **o----o** WC (トイレではない、ダブルコール) マイクを握ったとき、離れたとき両方鳴る。

0 **----** NC (ノーコール) **F** + **3** + **2** がセットされていても鳴りません。

◎ どうすれば？

15局待ち受けをする方法	-----	2ページ
群番を吸い取る方法	-----	3
CHを固定する方法	-----	3
CHを記憶する方法	-----	3
自分を知る方法	-----	4
相手を知る方法	-----	4
他人に成りすます方法	その1 免許番号吸い取り -----	4
	その2 免許番号打ち込み -----	4
ひとりだけ待ち受ける方法	-----	4
PTTをロックマイクにする方法	-----	7
8つのモードを全部スキャンする方法	-----	7
新モード158CHでスキャンする方法	-----	9
空いているCHを探す方法	-----	7
8つのモードを全部待ち受ける方法	-----	7
リセット中に通り過ぎた群番を戻す方法	-----	7, 8
個々の群番を探す方法	-----	9
個々の群番を探して貯金する方法	-----	13
自動でリコールを打つ方法	その1 PTT -----	8
	その2 多群番 -----	8
	その3 タイマー -----	8
送信パワーを落とす方法	-----	5
受信感度を落とす方法	-----	9
新モードで呼ぶ方法	その1 小ゾーン -----	9
	その2 1分通話 -----	9
群番号を読みとらせない方法	ATISカット -----	5
群番を解読する方法	-----	5
緊急事態の時	---E-CODE-----	2
電監の取締まりに会った時	-----	1

◎ F の機能一覧表

F	+	1	+	1	=	ON→PTTロックマイク	OFF→ノーマルマイク	P7	
F	+	1	+	2	=	ON→全モードスキャン	OFF→単一モードスキャン	P7	
F	+	1	+	3	=	ON→メモリスキャン	OFF→順番CHスキャン	P7	
F	+	1	+	4	=	ON→空きCHスキャン	OFF→使用CHスキャン	P7	
F	+	2	+	1	=	ON→全モード待ち受け	OFF→単一モード待ち受け	P7	
F	+	2	+	2	=	ON→プライオリティ表示	OFF→表示なし	P7	
F	+	2	+	3	=	ON→リザーブ機能ON	OFF→リザーブOFF	P7	
F	+	2	+	4	=	ON→全群番号リザーブ	OFF→一致した群番だけリザーブ	P8	
F	+	3	+	1	=	ON→PTTリコール1分	OFF→PTTコールなし	P8	
F	+	3	+	2	=	ON→ランダムコール	セレクト OFF→通常コール	P8 ミュジックBOX	
F	+	3	+	3	=	ON→多群番リコール	OFF→普通のリコール	P8	
F	+	3	+	4	=	ON→タイマーリコール	OFF→普通のリコール	P8	
F	+	4	+	0	から	7	=	リザーブメモリーセット	P12~14
F	+	4	+	8	=	リザーブメモリー戻し		P13	
F	+	4	+	9	=	リザーブメモリー送り		P13	
F	+	5	=	ON→ATIS信号カット	OFF→ATIS信号出る	P5			
F	+	6	=	ON→群番解読	OFF→群番解読しない	P5			
F	+	7	=	ON→表示ランプON	OFF→表示ランプOFF	P5			
F	+	8	=	A-CODE 群番号セット		P5			
F	+	9	=	B-CODE 群番号セット		P5			

F	+	モニタ	=目覚まし時計機能	P8		
F	+	0	=送信出力切り替え	P5		
F	+	F	+	0 から 9	=群番号コピー	P3
F	+	F	+	メモリ	= 免許番号吸い取り	P4
F	+	F	+	メモリリード	= 時局の免許番号表示	P4
F	+	F	+	モニタ	= 相手の免許番号表示	P4
F	+	セレクト	= 死んだふり機能	P1		
F	+	MIC リセット	= HOLDから抜ける	P6		
F	+	リセット	= HOLDから抜ける	P6		

本機では、メモリー1から8、表示群番号、その他特殊群番号の待ち受けが、個々に行なえます。また、免許番号での待ち受けや、どの信号でも答える、全群待ち受けも出来ます。

ノーマルの状態では、メモリーリードか、メモリのキーを、2秒間ほど押しっぱなしにしていると、待ち受けの設定解除になりますが、スーパー ウィンクルでも、同様に設定を行ないます。

ただし、メモリーリード と メモリ のキーは、それぞれ別の待ち受け設定になります。

緊急 交通 高速 近接

例 メモリーリードを押した場合 => 123AB

- 1 --- メモリー1の待ち受け ON/OFF
- 2 --- メモリー2
- 3 --- メモリー3
- 4 --- 交通コード
- 5 --- 高速
- 6 --- 緊急
- 7 --- 近接
- 8 --- Aコード
- 9 --- Bコード の待ち受け ON/OFF

それぞれの表示がついて、
待ち受け状態となります。

例 メモリを押した場合 => 45678 又は A&I5 又は ALL

- 4 --- メモリー4の待ち受け ON/OFF
- 5 --- メモリー5
- 6 --- メモリー6
- 7 --- メモリー7
- 8 --- メモリー8の待ち受け ON/OFF
- 9 --- 免許番号の待ち受け => A&I5 ON
- 0 --- 全群番号の待ち受け => ALL ON

なお、以上の待ち受けの優先順位は、以下のようになります。

全群番待ち受け > 免許番号待ち受け > メモリー待ち受け > 特殊群番号待ち受け

全群番と、免許番号の待ち受けのときには、他のメモリーなどの待ち受けは、無効になります。モニターなどから、リセットした時に、上記と同じ表示が出ます。

免許番号の待ち受けでは、待ち受ける相手の番号を、自分の番号に記憶させる必要があります。免許番号の取り方、打ち込み方は、免許番号の解説の欄に記しています。

待ち受け群番号で呼び出された場合、後記する、サウンドで呼び出し音を行ないます。これにより、どのメモリーの群番号で呼び出されたのかが、群番号を確認しなくてもわかります。

9, 群番号解読の時、表示された群番号を、自分のメモリーにコピーすることが出来ます。
コピーしたい群番号が表示されたら、以下の操作を行ないます。

$\boxed{F} + \boxed{F} \Rightarrow \boxed{COPY_} + \boxed{0}$ から $\boxed{9}$ のキー (0の場合) $\Rightarrow \boxed{COPY0}$

この例では、メモリー0に、コピーしていますが、以前に記憶されていたメモリーは、消されます。
消してもいいメモリーナンバーを選んで押してください。雑用メモリーをあらかじめ決めておくといでしょう。

10, CHの指定が、キー入力により行なえます。

例 50CHにセットする。 $\boxed{5} + \boxed{0} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{0\ 50}$

例 123CHにセットする。 $\boxed{1} + \boxed{2} + \boxed{3} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{0\ 123}$

CHが2桁の場合、キー入力も2桁で行なえます。

例 ダウンモードの22CHにセットする。 $\boxed{1} + \boxed{0} + \boxed{2} + \boxed{2} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{1\ 22}$

4桁入力の場合は、先頭の桁をモードと判断します。

11, チャンネルの、メモリー、呼び出しが出来ます。

スーパーウインクルは、10個のチャンネルメモリーを持っています。

○メモリーする。

まず、記憶させたいCHに、セットします。

例 100CHにセットする。 $\boxed{1} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{0\ 100}$

100CHでモニター状態となります。その後、例として、CHメモリー1に、記憶します。

$\boxed{3}$ 2秒間押し $\Rightarrow \boxed{CHSET}$ + $\boxed{1} \Rightarrow \boxed{SET-1}$ 100CHがCHメモリー1に
セットされました。

○メモリーしているCHに移る。(メモリーを呼び出す。)

先程、CHメモリー1に入れた、100CHを呼び出してみます。

$\boxed{1} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{0\ 100}$ 100CHでモニター状態となる。

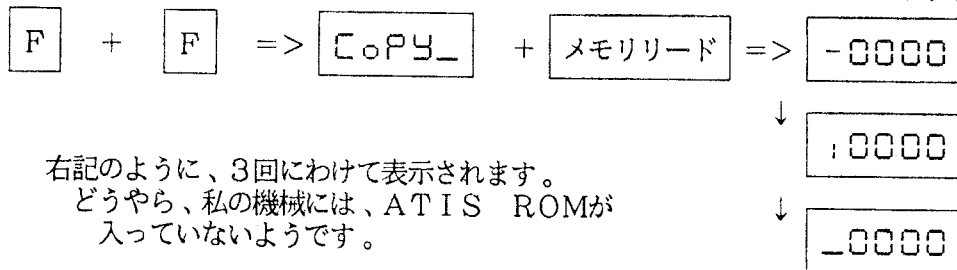
ここで注意する点は、CH指定のときは、2、3、または4桁入力でしたが、1桁入力の場合は、
CHメモリーの指定と解釈します。

メモリーセット、呼び出しとも、0から9までの10個のCHメモリーが使用出来ます。

リセット、モニター、レディのいずれの場合からでも、CHの移動が瞬時に行なえます。

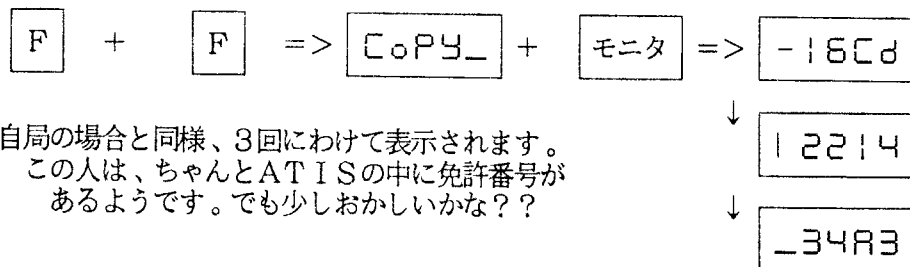
また、設定した時のモードも同時に、記憶しています。CHメモリー呼び出し時にも、そのモードに
自動的に移ります。

12, 自局の免許番号の表示 現在使用している自局の免許番号を、表示させます。



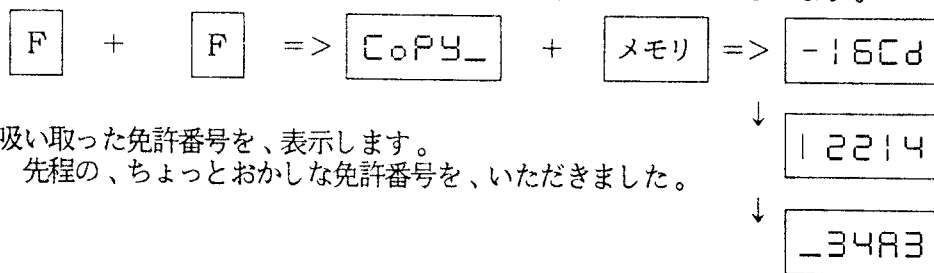
右記のように、3回にわけて表示されます。
 どうやら、私の機械には、ATIS ROMが
 入っていないようです。

13, 相手局の免許番号の表示
 受信した、ATIS信号の中の、免許番号を表示させます。



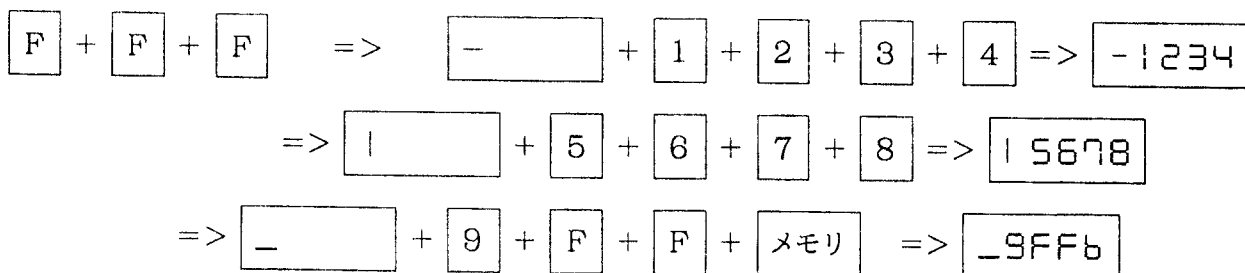
自局の場合と同様、3回にわけて表示されます。
 この人は、ちゃんとATISの中に免許番号が
 あるようです。でも少しおかしいかな??

14, 相手局の免許番号を吸い取る
 受信した、ATIS信号の中の、免許番号を、自局のものにしてしまいます。



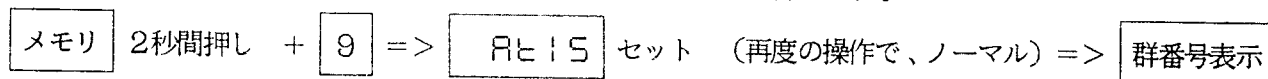
吸い取った免許番号を、表示します。
 先程の、ちょっとおかしい免許番号を、いただきました。

15, 免許番号をつくる!!
 自局の免許番号をつくりだしてしまいます。



これで、免許番号は、123456789FFB となりました。
 キー入力の際のアルファベット入力は、群番号の場合と同じです。
 お互いに、スーパーウインクル同士ですと、電話番号なども、1回のATIS信号で送れます。
 各自、活用方法などを考えてみてください。

16, 免許番号で待ち受ける
 リセット中、自局の免許番号と同じ局にだけ呼び出しを受け付けます。



群番号には関係なく、ATISのなかの、免許番号だけに答えます。
 あらかじめ、相手の免許番号を吸い取っておくか、記録しておいて免許番号を打ち込んでから使用して
 ください。なお、免許番号で待ち受けしている時は、他の待ち受けは無効となります。
 また、全群番待ち受けがセットされている場合は、そちらが優先されます。
 この表示は、モニターや、レディ状態から、リセット状態になった時に表示されます。

!!、なお、くれぐれも、悪用しないでください。!!

○ F の操作方法 その1 F+5~9について

F を押しますと、 **F055_** のセット、解除、及び確認が出来ます。

↑
この時、表示の左端の桁は、Fの表示となっています。
この点について注目しておいてください。

また、Fに続いて表示される数字は、現在のモードを表わしています。

17, ATIS信号のカット (すかしっぺ機能)

PTTを握った時、離れた時、1分に1回送信されるATIS信号を止めてしまう機能です。

F + **5** => **F05_** セット **F** + **5** => **F0_** 解除

セットされていても、リコールの時は送信されますので、呼び出しは出来ます。

18, 群番号の解読

受信したATIS信号の中の、群番号を表示させます。

F + **6** => **F0_6_** セット **F** + **5** => **F0_** 解除

19, 送信出力低減

無線機の送信パワーを下げる機能です。遠距離へ妨害を与えている場合などに有効です。

F + **0** . . . **0** => **0-2** . . . **1-0** . . . **5-0**

20, 表示ランプON/OFF

前面の表示ランプを、ON/OFF出来ます。

F + **7** => **L I C H T** 点灯または消灯

21, 特殊群番 A-CODE のセット

F + **8** => **A c o d E** この機能は、リセット状態の時のみ、有効です。操作の後、PTTで発信します。この時は、リセットすると元の群番号に戻ります。通話状態からセットした場合は、群番号は変わりません。

22, 特殊群番 B-CODE のセット

F + **9** => **b c o d E** この機能は、リセット状態の時のみ、有効です。操作の後、PTTで発信します。この時は、リセットすると元の群番号に戻ります。通話状態からセットした場合は、群番号は変わりません。

○ F の操作方法 その2 F+1~3について

F に続いて、1~3のキーを押しますと、今まで **F** と表示されていた部分が、数字に変わります。

本機は、機能が増えたため、**F** 1~3は、二段設定になっています。
F 1~3まで、それぞれに、1~4のセットを設計しています。

F + **1** => **1**_____

↑

F を押しただけでは、**F** の表示だった左の桁に、1~4の数字が表示されます。
 この時、二回目のキーを受け付けます。また、リセットキーで中止出来ます。

F + **2** => **2**_____

F + **3** => **3**_____

上記と同様に、1つのキーの中に、
 4つの機能がセットされるようになっています。

○ 例

↓↓↓
 ↓つ↓
 ↓づ↓
 ↓け↓
 ↓て↓
 ↓操↓
 ↓作↓
 ↓し↓
 ↓ま↓
 ↓す↓
 ↓↓↓

F	=>	F0 ____	=	F +5~6は、セット なし
1	=>	1 _____	=	F +1のなかは、セット なし
1	=>	11 ____	=	F +1+1 が、セット された
3	=>	11_3_	=	F +1+3 が、セット された
1	=>	1__3_	=	F +1+1 が、解除 された
リセット	=>	群番号表示	=	F の作業から抜けた

上記のような操作手順により、**F** 2段セットを行います。

23, スペシャル機能をすべてOFFとする。

スペシャル機能をまずOFFにしてから使用されるとよいでしょう。

F + **1** => **11234** = **F** 1のP中のどれかが表示されている場合、そのキーを押して表示を消します。

リセット => 群番号表示 = **F** 1の中がすべて消えたところで、RSTキーで、**F** を抜けます。

F + **2** => **21234** = **F** 2の中の場合も同様に行います。

以上の操作を、**F** +3についておこないますと、取り合えず、
 設定解除のできるスペシャル機能については、すべてOFFとなります。

24, マイクのPTTをロック式にする。

マイクのPTTをロック式にします。もう、ガチャコンマイクのスプリングを外さないで済みます。

$\boxed{F} + \boxed{1} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{11_ _ _}$ PTTを握るたびに、ロック-解除-ロックを繰り返す

25, 連続モードの切り替え

モニターサーチの時、1回してCHの最初になると、モードを一つ進めます。これにより、すべてのモードがつながったようになり、サーチを行います。

$\boxed{F} + \boxed{1} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{1_2_ _}$

26, メモリースキャン

CHの順番のスキャンではなく、CHメモリーのスキャンを行います。スーパーウインクルには、10個のCHメモリーがありますが、CHメモリーについては、11, 項を参照ください。連続モードがセットされている場合、各モードごとの各CHをサーチしてゆきます。解除の場合は、各CHメモリーが記憶しているモードに、順次切り変わります。

$\boxed{F} + \boxed{1} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{1_ _ 3_}$

27, 空きCHサーチ

スキャンを空いているCHで止めるようにします。あくまで、機械の空きCHレベルにより判断しますので、遠くで使用している場合、また、ブレイクタイムの時などで、使用中のCHで止まることもあります。

$\boxed{F} + \boxed{1} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{1_ _ _ 4}$

28, 全モード待ち受け

すべてのモードの制御CHを、リセット中に高速スキャンしながら待ち受けます。一度に8つのCHを聞いている訳ではないので、着信率は悪化します。全モード待ち受けしている局を呼び出す時には、連続リコールを使用してください。

$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{21_ _ _}$

29, プライオリティ (留守番機能)

リセット中や、モニター中、他のCHでレディになっている時に、CHメモリー1 にセットしたCHを監視する機能です。約15秒に一回の割合で、瞬間的にCHメモリー1を、受信します。このCHで、だれかが送信を行っている時、5分の表示が点滅します。

$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{2_2_ _}$

30, 自動リザーブ機能

本機には、群番メモリー、CHメモリー、の他に、リザーブメモリーを持っています。リザーブメモリーとは、群番、CHのメモリーとは独立して、群番とCHをペアでメモリーしておけます。ここでは、自動的にこのメモリーに機械の判断でデータを記憶させてしまう機能です。以下の(一致群・全群)機能と組み合わせて使用します。

$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{2_ _ 3_}$

なお、次に示す全群、一致群番号のリザーブ機能は、この機能がセットされて始めて使用出来ます。

リザーブメモリーは、全部で8個ありますが、9個目を記憶させると、1個目が消えてしまいます。別項目に、リザーブメモリーについての詳細を記していますので、そちらを参照ください。

31, 全群番号リザーブ

前記の自動リザーブと組み合わせて使用します。セットすると、リセット中、スペシャルサーチ中に受信した、すべての群番号と、そのCHをリザーブに記憶してゆきます。
また、解除されている場合は、待ち受けセットされている群番号と一致した信号だけを、記憶してゆきます。

$$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{2_34} \quad *P12 \text{以降に詳しい説明があります}$$

F+2+3, 2+4をセットしてリセット待機しますと、群番解読で次々と変わってゆく群番号を、後戻りさせて、そのCHに移動することが出来ます。

32, PTTによる自動リコール

PTTを離れた時に、自動的にリコールを送信する機能です。

$$\boxed{F} + \boxed{3} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{31_}_$$

33, ランダムコール セレクト

スタンバイコールがPTTを押したり離したりするごとに、ランダムに変わります。

$$\boxed{F} + \boxed{3} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{3_3_}$$

34, 多群番一括リコール

メモリーしている群番号を、すべてリコールする機能です。
呼び出すCHは、リコールを打ったCHに変わります。

$$\boxed{F} + \boxed{3} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{3_3_}$$

35, タイマーリコール

通話中(レディ)、自動的に、3分間ごとにリコールを打つ機能です。

$$\boxed{F} + \boxed{3} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{3_}_4$$

36, 目覚まし時計

目覚まし時計にします。信和の方式と同じく、減算カウンタになります。
最小設定時間は、10分単位です。

$$\boxed{F} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{\text{t}} - \boxed{\quad} + \boxed{(\text{時})} + \boxed{(10\text{分})}$$

時間になると、ダンダントーン方式でうるさくなっていきます。

この時、マイクのPTTを握りますと、タイマーが5分延長されます。
残り時間がある状態で、本体のリセットを押しますと、目覚まし時計から、無線機に戻ります。
(時間になった場合は、必ずPTTを握ってから、本体のリセットを押してください。)

例 4時間30分後にあわせる。

$$\boxed{F} + \boxed{\text{モニタ}} \Rightarrow \boxed{\text{t}} - \boxed{\quad} + \boxed{4} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{\text{t}4-29}$$

このように、減算タイマーですので、すぐに29分の表示になります。異常ではありません。

$$4\text{時間}30\text{分後} \Rightarrow \text{ピピピ} \dots + \text{PTTを握る} \Rightarrow \boxed{\text{t}4-04} \quad (5\text{分延長})$$

$$5\text{分後} \Rightarrow \text{ピピピ} \dots + \text{PTTを握る} \Rightarrow \boxed{\text{t}4-04}$$

完全に目が覚めたので、本体のリセットを押して、無線機に戻る。

目覚めの悪い人のために、最後には相当大きな音がします。近所迷惑にならぬようご注意ください。

37, スペシャルサーチ

モニターサーチする際に、受信した局と、自分の待ち受けを比較しながら行います。
信号の入感するCHでは、30秒感ATIS信号を待ちますが、信号が受信できなければ、次のCHにサーチを続けます。信号が受信できたなら、群番号を確認し、待ち受けと違えば、次のCHへ移ります。

1 2秒間以上押し続ける => モニターとSの表示をして、モニターサーチになる。

38, 80CHモード、158CHモードの切り替え

呼び出しや、モニターの際のスキャンの幅などを、80CHモードにするか、158CHモードにするかを決めます。

2 2秒間以上押し続ける => 表示の、80CHと158CHが、変わる。

39, CHメモリが出来ます。

メモリさせたいCHで、モニタ、またはレディ状態の時に操作します。

3 2秒間以上押し続ける => CHSEt この後、メモリしたいNO.のキーを押します。

例 メモリ2に記憶 2 => SEt-2

40, ローカルモード

通話する相手をローカルモードで呼び出します。呼び出された相手は、自動的に受信感度、送信出力低減上態になって呼び出されます。また、モニタ、レディ状態でも操作できますが、この時は、受信感度を低下させる機能になります。遠距離からの混信がある場合などに有効です。

8 2秒間以上押し続ける => 表示の、小ゾーンが、点燈、消燈する。

41, 1分通話モード

通話する相手を、1分通話モードで呼び出します。ただし、自局は、1分たってもリセットしません。リセット状態の場合だけ、効果があります。

9 2秒間以上押し続ける => 表示の、1分が、点燈、消燈する。

42, 特殊群番号の自動設定

交通、高速、緊急、近接の、特殊群番号をセットします。ノーマルにある機能と同じです。リセット状態の場合だけ、有効です。レディ状態では群番号は変化しません。レディ状態から群番号を打ち変えるには、キー入力により行ってください。

4 2秒以上押し続ける => FCodE (交通) F0000

5 2秒以上押し続ける => HCodE (高速) F0003

6 2秒以上押し続ける => ECodE (緊急) FF000

7 2秒以上押し続ける => LCodE (近接) F0005

43, 特殊オプション群番号

新モードの機種には、新たに、A, B, H, L, P, Eなどを頭文字にした特殊群番号がもうけられていますが、実際には、そのような文字のコードの信号が出ている訳ではなく、すべて、数字の'0'から、アルファベットの'F'までのコードで送られています。

FF000 => E-CODE
F0000 => P-CODE
F0003 => H-CODE
F0005 => L-CODE
F0006 => A-CODE
F0009 => B-CODE

このような構成になっています。
規則性としては、先頭が'F'であること、
E-CODEを除いて、中が'000'であること
のようですが、まだ空きがあります。

そこで、スーパー ウィンクルでは、勝手に空きのコードに、コードネームをつけてしまいました。

F0001 => N-CODE----
F0002 => Y-CODE----
F0004 => r-CODE----
F0007 => T-CODE----
F0008 => G-CODE----
F000A => U-CODE----
F000B => -CODE----
F000C => C-CODE----
F000D => d-CODE----
F000E => F-CODE----

↑各自で好きなコード名をつけてください↑

これらの群番号は、あらかじめメモリーにある訳ではなく、そのコードに該当する群番号を打ち込むと、上記のように表示されるものです。

入力例

リセット => [-----] + [F] + [0] + [0] + [0] + [末尾]

末尾に該当する部分に、0~Eの文字にあたるキーを押せば、上記に記してあるコードが表示されるはずですが。

特に、Y-CODEなど、どんな通信目的に使用されるかは、推してしるべし。

大いに利用してください。また、他の機種では当然表示されませんので、あまり意地をはらないように、、、

◎ CHについて

キー操作によるCH設定の場合は、01CH~158CHまで、可能です。

(モニタースキャンの場合は、02CH~158CHまでです。)

ただし、モード 5, 6, 7は、極度に周波数が離れているため、

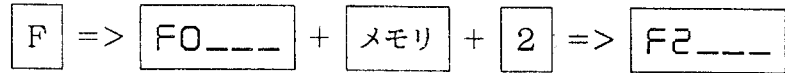
無線機本体の性能により、送信できない場合があります。また、送信していても、安定した電波であるかは不明です。

このため、この周波数帯での送信は、極力行わないでください。終段パワーモジュールの故障の原因ともなります。

◎ モードの切り替え

モードの切り替えは、F+メモリ に続く数字キーで設定出来ます。

例 ダブルダウンモードにセットする



◎ 最近の900MHz帯の様子

パーソナル無線も、もう、8年の歴史が有りますが、最近になって特に、OFFバンドに対する取締が強化されてきているようです。驚くことは、このスーパー ウィンクルのバンドの状態、6、7モードあたりで自動車電話が入感してくる事です。自動車電話は、もっと下の周波数から割てがあるはずなので、このあたりの周波数まで使用しているなどと、相当の加入者数になっているものと思われます。裏を返せば、それだけお金をかけて電波を使用している局が多くなってきているということです。

又、アップモードに当たる、MCA局の加入数も、相当延びてきているようです。

このため、多大の費用を使って運用している局が多くなる為、特に、パーソナル無線の、OFFバンドに対する取締が厳しくなっています。なにしろ、パーソナルは彼等にとっては、ただの遊びですから。

あえて、OFFバンドは、送信禁止状態にはしません。いつでも電波は出る。その時になって出ないのでは話にならないと思います。ただ、どこで使うかだと思います。

各自十分自覚を持って、この、スーパー ウィンクルを運用して下さい。

モード0	—— ノーマルモード	————— 903~904MHz	—— ノーマル
1	—— ダウンモード	901~902MHz	} 現在割り当てなし
2	—— Wダウンモード	899~900MHz	
3	—— トリプルダウンモード	897~898MHz	
4	—— フォースダウンモード	895~896MHz	
5	—— ファイブダウンモード	893~894MHz	
6	—— シックスダウンモード	891~892MHz	} 自動車電話がぼちぼち 使用中
7	—— どん底モード	889~890MHz	

◎ リザーブメモリーについて

- リザーブメモリーとは、一種の裏メモリーです。
スーパー ウィンクルでは、1280にも増えた全てのCHを、十分有効に使用するのには、困難な程になりました。そこで、リザーブメモリーを活用すれば、ある程度のCH、群番の管理を機械に任せてしまおうというものです。
- リザーブできる数は、4個までです。5個目を入れますと最初の1個が消されてしまいます。
- 群番、CH、モードまでをワンタッチで記憶できてしまう便利な機能です。
あらかじめセットしておき、CHからCHへ、瞬時のQSY（CHの移動）に、又多数のグループとの掛け持ちQSOも、らくらくOKです
- リザーブメモリーの使い方としては、以下の4通りがもっとも便利と思われます。

- 1、リセット待機中、呼ばれた群番、CH、モードを記憶して、リセット状態を続ける。
- 2、リセット待機中、群番解読で、次々表示される群番を貯めておき、希望の群番号の所まで、後戻りさせる。
- 3、モニターサーチから、スペシャルサーチを行い、待ち受けと同じ群番号を見つけたら、その群番、CH、モードを記憶して、スペシャルサーチを続ける。
- 4、自分であらかじめ、リザーブメモリーに記憶しておき、そのCH間を自由に行き来する。

以下に、それぞれの機能の組み合わせ方法を例として記載します。
なお、スペシャル機能は、全てOFFの状態からセットするものとします。
また、群番号の、メモリー及び、待ち受けの設定はされているものとします。

○1、リセット待機中の留守番機能

自動リザーブ機能を、ONにします。

$$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{2_3_}$$

以上をセットしてリセット待機をすれば、自動的に呼び出しを受け30秒後にその群番、CH、モードを記憶しリセット状態に戻ります。

○2、リセット中の群番戻し

自動リザーブ機能を、ON にします。

$$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{2_3_}$$

全群番号リザーブ機能を、ON にします。

$$\boxed{F} + \boxed{2} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{2_34}$$

群番号解読機能を、ON にします。

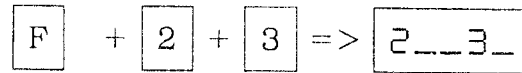
$$\boxed{F} + \boxed{6} \Rightarrow \boxed{F06_}$$

以上をセットしてリセット待機をすれば、次々表示されてくる群番号を、後戻りさせて、そのCHに行くことが出来ます。ただし、4個以上の信号は戻せません。

$\boxed{F} + \boxed{4} + \boxed{8} \dots \boxed{8}$ のキー操作を行えば、今までに貯まった群番号が、表示されます。
希望する群番号で、モニターを押します。

○3, スペシャルサーチリザーブ

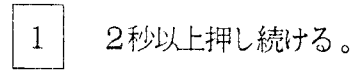
自動リザーブ機能を、ON にします。



群番号解読機能を、ON にします。



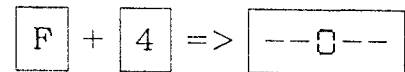
スペシャルサーチを行います。



以上をセットすれば、待ち受け群番号と、同じ群番のCH、モード記憶して行きます。
 なお、リセットを、かけるまで行いますので、出かける間に、仲間のいるCHを調べておけます。

◎ リザーブメモリーの仕組み

以下の説明は、リザーブメモリー中での事です。

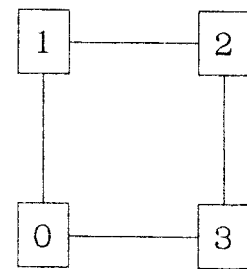


リザーブメモリーには、0～3までのナンバーが付いています。

自動リザーブで記憶されている場合、リザーブメモリーは、そこにデータが書き込まれると、自動的にナンバーをつ進め、次のデータに備えます。

8 のキーで、取り出せるリザーブを一つ戻します ↑

0 から 3 のキーで直接記憶出来ます。



9 のキーで、取り出せるリザーブを一つ進めます ↓

リザーブ関係の操作を行った場合、---□--- の表示がされます。

これは、現在、中央に表示されたナンバーのリザーブから出力可能という意味です。

◎ リザーブを呼び出す

F + 4 + 8 と 9 のキーを押すと、---□--- のような表示が出て、群番号が出ます。

ただし、上の中央の数字は、現在のリザーブのナンバーを表していますので、0～3までのどれかです。

8 と 9 のキーで、呼び出したいリザーブNo, または、群番号が表示された時に、**モニタ** を

押します。すると、リザーブされていたCHに移ります。また、PTTを押すと、自動的に

リザーブされていた群番号になります。

リザーブを呼び出しても、0～9のメモリーは、壊される事はありません。ただし、表示群番号は入れ替わります。

◎ リザーブに記憶させる

ここでは、自分の希望する群番，CH，モードを、指定したリザーブに記憶します。

A まず、機械が勝手にリザーブ機能を動作させないように、自動リザーブを止めておきます。

F + 2 + 3 . . . => 212__ 3と4が消えるようにする

B 適当な群番号，CH，モードにする。

C リザーブモードにする。 F + 4 のキーを押す => --□--

D リザーブにさせたいNO.のキーを押す。=>リザーブNO.を表示して、群番号表示に戻る。

以上でリザーブへのメモリーが行われました。
以降は、いつでもリザーブされたNO.にして、モニターキーを押せば、そのCHに群番号も合わせて移動します。

○ 各状態による、マイクのキーの機能

マイクのセレクト及びモニタの機能は、無線機の状態により、変わります。

セレクトキー

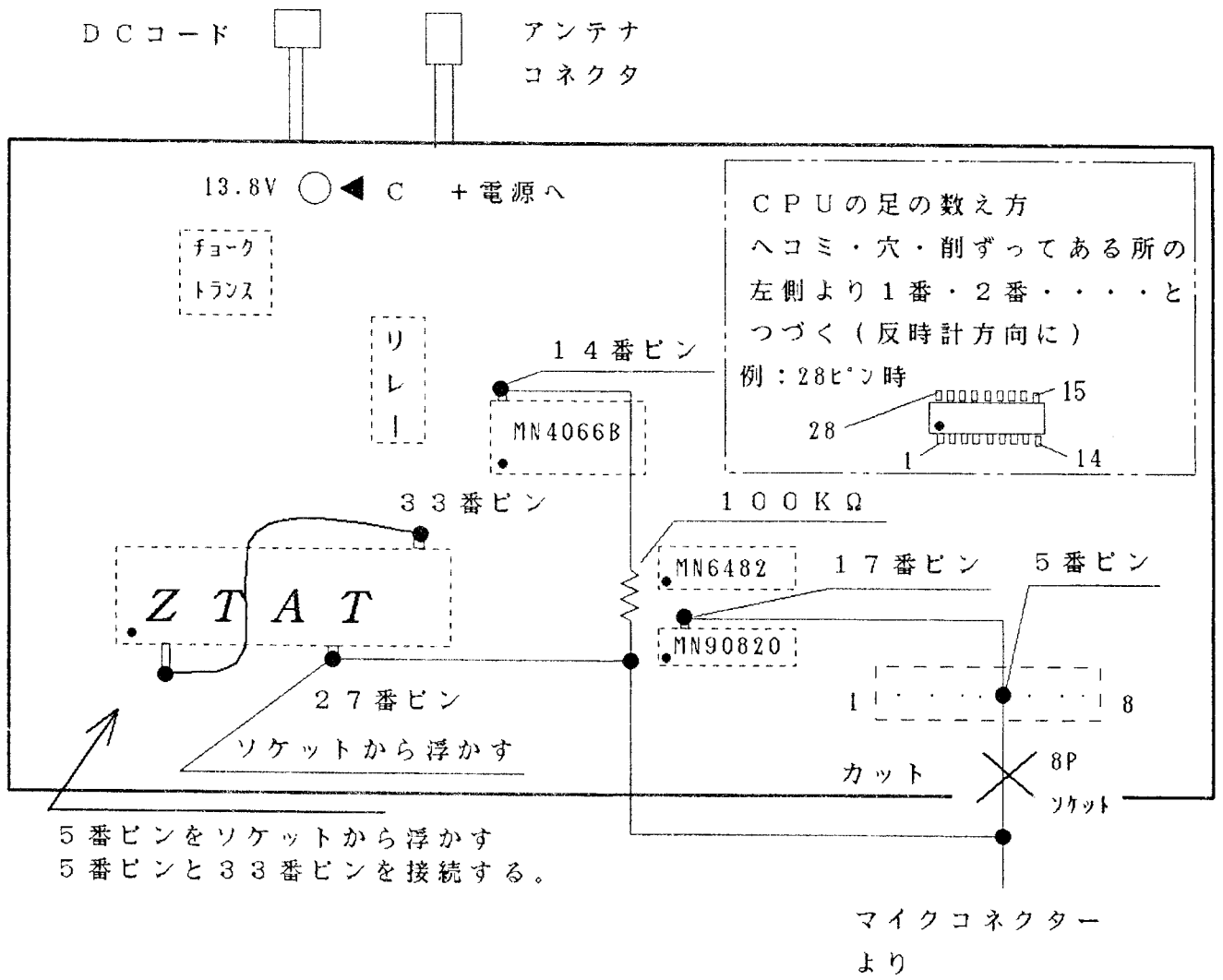
リセット	—————	メモリー呼び出し
固定モニター	—————	-1 CHモニター
サーチ一時停止中	—————	そのCHを固定
モニター中1秒間押し	—	マイナス方向でサーチ
レディ	—————	連続リコール
HOLD機能中	—————	死んだふり

モニタキー

リセット	—————	モニター
固定モニター	—————	+1 CHモニター
サーチ一時停止中	—————	そのCHを固定
モニター中1秒間押し	—	プラス方向でサーチ
レディ	—————	スケルチOFF，CH表示

サーチの一時停止中とは、モニタのランプが点滅している状態で、タイマー又はATISの信号を持っていて、つぎのCHに移動する状態のことです。

変身システム



5番ピンをソケットから浮かす
5番ピンと33番ピンを接続する。

前面パネル側